

中津川市の人口の“現状”と“展望”

中津川市では、人口の現状と展望を示すために、2020年の国勢調査を基に「中津川市人口ビジョン」を2024年3月に改訂しました。

子育てや事業承継、地域活動など、さまざまな分野の課題とつながる人口問題について、一緒に考えませんか？



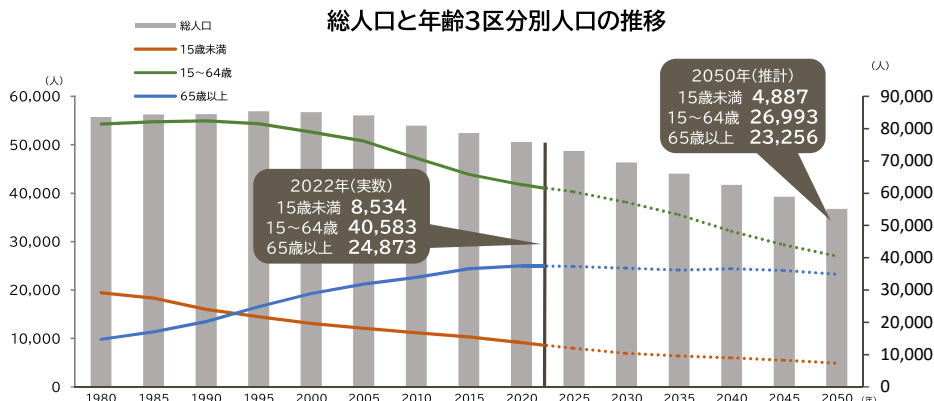
詳しくは二次元コードから

加速する少子高齢化

中津川市(以降、本市とする。)の総人口は1995年をピークに減少傾向が続いています。

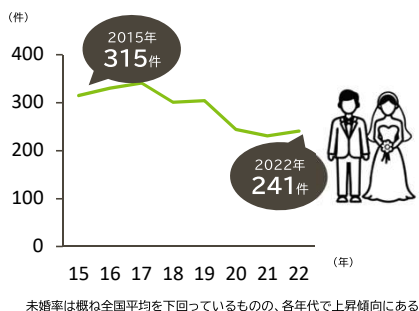
特に、年齢3区分別人口(右グラフ)では、15未満および15歳～64歳の人口が減少傾向にある一方、65歳以上は増加傾向にあります。

※右表の推計は、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2020年の国勢調査をベースに行ったものです。



人口増減の背景

婚姻数の減少



出生数と合計特殊出生率の低下

出生数
2015年 633人
2022年 378人

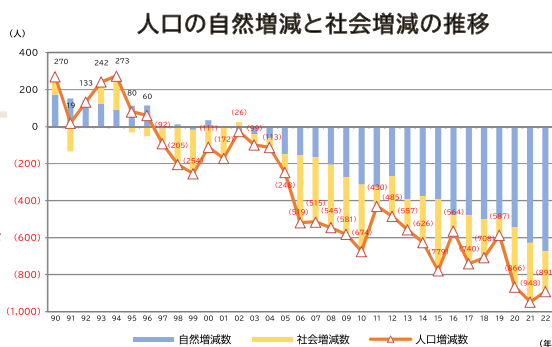
合計特殊出生率※
2015年 1.74
2021年 1.33



※1人の女性が生涯に産むことが見込まれる子どもの数

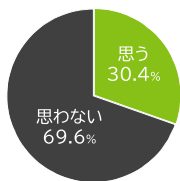
本市の人口増減数をみると、出生数が死亡数を下回る「自然減」、転入数が転出数を下回る「社会減」の状況にあります。

自然増減と社会増減の両方が人口減となる状況にあり、2006年以降は430人～950人程度の減少が続いています。



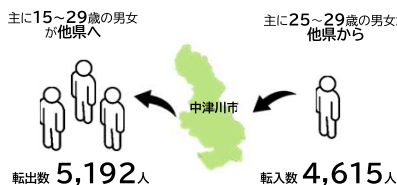
若者の就業に対する意識と希望

高校2年生に聞きました
地元で就職したいと思いますか？



資料：中津川市「令和5年度高校生の就職に関する意識調査」

転出数が転入数を上回る転出超過



前回国勢調査(2015年)時の居住地からの転入出(2020年)

市が目指すべき人口の将来展望

①合計特殊出生率の上昇

未婚化・晩婚化を抑制して、結婚から妊娠・出産、子育てに対して切れ目のない支援を総合的に行うほか、地域全体での子育て支援に取り組みます。

②若年層の人口流出抑制と転入促進

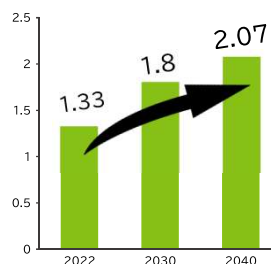
若年層の就業ニーズを踏まえた新たな分野の産業の誘致や既存産業の活性化による転出の抑制。また、Uターン施策をはじめ、子育てがしやすい生活環境を整備することで転入数を促進します。

現在の人口構成や社会状況を踏まえると、このままの人口規模を維持することはとても難しい状況です。

将来にわたり、持続可能なまちの実現に向け、人口減少を抑制するための子育て支援、出生率を上昇させるための施策、市内への定住・移住の推進に取り組みます。

展望

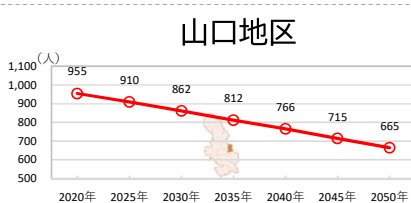
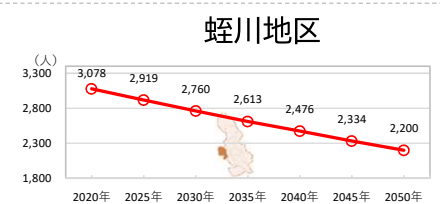
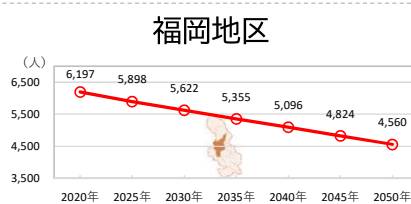
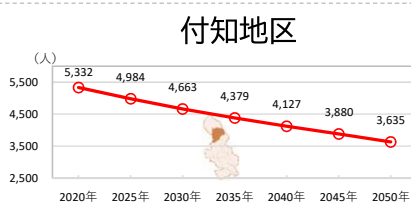
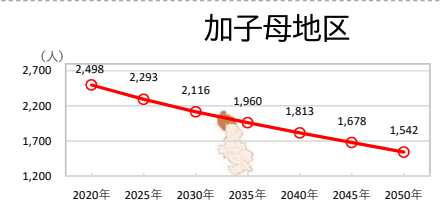
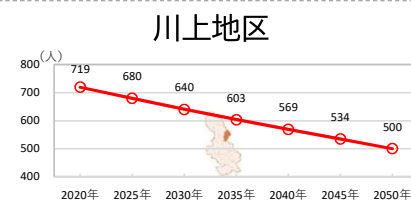
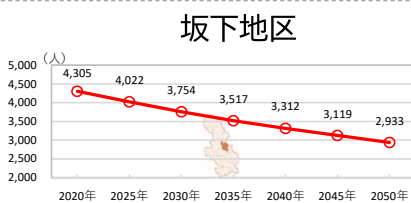
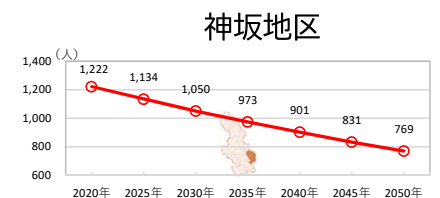
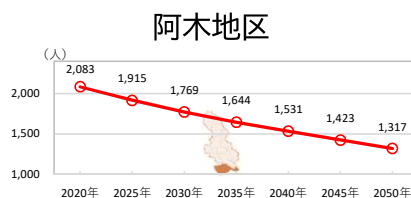
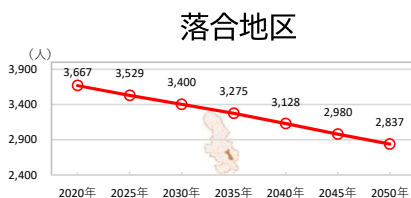
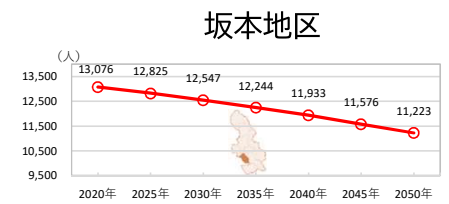
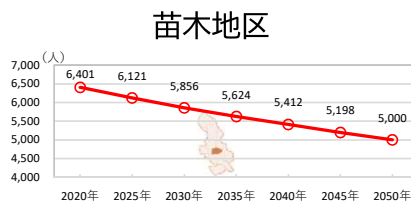
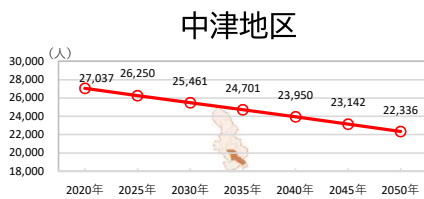
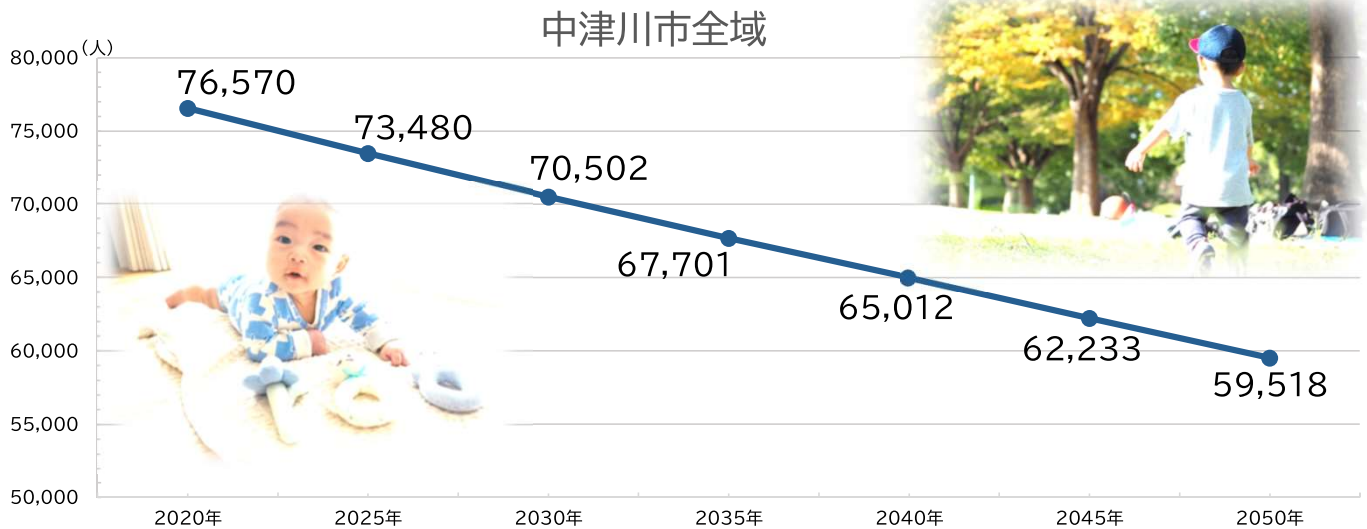
人口の維持に必要とされる合計特殊出生率 2.07



あなたの住む地域の将来

2020年の男女・年齢別の人口を基準として、目指すべき将来の仮定値をあてはめて将来人口を推計しました。

～中津川市の将来人口推計～



※次の条件における中津川市の独自推計です。

出生	岐阜県と同じ合計特殊出生率の設定(2030年1.8 2040年2.07)
移動	2035年までは、転出2%減、転入2%増(社人研の推計対比) 2040年以降は転入・転出が均衡